

龍源寺報

正月号

臨濟宗・妙心寺派	住職	松原信樹
佛母寺住職	松原覚樹	
正福寺住職	松原行樹	
TEL	3451-1853	
FAX	3451-6094	

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: ryugenji@ryugenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

新年を迎えて

祖父・泰道は、自分を産んだ母の顔を知らなかった。母の顔を知りたいがために、自分の顔を鏡で見て、母の顔を想像していた。「自分の中に母がいる」と。もつと言え、自分の中に、父がいる。おじいさんがいる。おばあさんがいる。たくさんのご先祖様がいらっしやる。

親愛なる人が亡くなると、どうしようもない孤独感と悲壮感が襲ってくる。どうかなくてしまうのではないか。そんな悲しみに打ちのめされた時、私は、ふと気づいたことがある。「亡くなった人は遠くに行ってしまったて会えないけれど、生きていた時よりも、もつと身近な存在になりえる」と。これは、概念ではなく、私自身の体験に裏打ちされたものである。「法華経」という經典の中に「いつも悲しい気持ちを大切にしていると、人生においてかけがえのないことや大切なことを、その悲しみが、教えてくれる」(常懷悲感、心遂醒悟)とある。百歳を越え、自分の顔を鏡で見て、母の顔を想像していた祖父の姿を思い出す。きっと、一度も会ったことのない母だったけれど、祖父・泰道にとって母・ようは、一番身近な存在だったに違いない。

わたしがわたしになるために、じんせいのしっぱいも、ひつようでした、むだなくしん(苦心)もほねおり、かなしみもすべて、ひつようでした、わたしがわたしになれたいま、みんなあなたのおかげです、おんじんたちに手をあわせ、ありがとう、ございました、ひとりごと

(作者) をさはるみ

詩に描かれているように、身の回りに起こることは、全て学びである。どのような人でも、どうにもならない人生の壁にぶつかる。すんなり進めない。佛母寺・開山の山田無文老師は、

大いなるものに抱かれ、あることを、今朝吹く風の、涼しさに知る

と、朝吹く風の涼しさに「大いなるものに抱かれ、ああ、今日も生かされている」と詩をお作りになった。

新年を迎え、壁にぶつかりながらも、精進していくところに、価値をみつけない。壁にぶつかって、辛いときは我慢するしかないけれど、そういう辛抱している人に寄り添える人になりたい。皆様にとって良いお年でありますように。

龍源寺観音堂に如意輪観音様を安置させ

て頂いております。

納められた皆様の御寄付は観音堂の維持、

観音堂周辺の境内整備に充てさせていただ

いております。

季節の草花を植え、ご来山いただいた皆

様に安らいでいただきたいと思います。

又、将来は本堂の裏地を整備して、大般

若経を納める経蔵を建立する計画をしてお

ります。

大般若会(お正月の祈祷法要)

左の通り行ないます。ご家族そろってお参りください。

一、一月七日(土曜日・午前十一時より)

一、読経

一、法話

※駐車場はありません。南北線をご利用ください。

禅の会(定例)

一月七日(第一土曜日)

午後一時半より三時半まで行います。

・坐禅と講話。

・茶礼代一人・二百円。

・参加予約不要です(午前の禅の会は中止)

三木童心さん

龍源寺に幼少の頃から、出入りをしている方は、たくさんいらつしやる。その中の一人に仏師の三木童心さんがいる。現在、龍源寺開催の仏像彫刻会で月二回、第二・第四土曜日の午前と午後の部で講師をしていたいており、毎回盛況である。二十年は越えるであろうか。その他、カルチャーセンターでの講師、著書もある。

龍源寺と三木さんとの縁は深い。三木さんが幼少の頃、哲明和尚が家庭教師をし、暗記ができないと、一升瓶の水を三木さんに飲ませていたという。だから三木さんは必死だったと思う。スパルタ教育に見えるが、三木さんのことを思つての哲明和尚の行動だったのだろう。実際、成績も上がったという。暗記ができなくて、哲明和尚に怒られてゐる三木さんを祖母・志ずが見て、おやつのお菓子を良く持つて行つたという話しを祖母から直接聞いた。お正月には、龍源寺で餅を喉に詰まら

せたり、何をしたかわからないが、警察署に泰道和尚が保証人となり迎えに行つたりもした。しかし、誰よりも泰道・志ず・哲明にかわいがられていた。祖母は、海外旅行が珍しい時代にヨーロッパなどにも連れていった。母が松原に嫁いだ時、もちろん三木さんが台所にいて、「真紗子さん、僕の方が先輩だからね」とさらりと声をかけたという。

仏飯という仏さんのご飯をいただいたご縁か、哲明和尚が紹介した会社を辞め、三木さんは、仏像を彫る仏師になった。龍源寺との深い縁を知っていたから、

私が住職になったら是非三木さんに仏像を作つていただきたかった。その片思ひも、この度、経蔵建立の志を立て、経蔵に安置する傳大士像をお願ひすることになった。

これからも、仏像彫刻で、多くの方々に心の安穩を説いていただきたい。

〔仏像を彫る会〕月二回、第二・第四土曜日。午前の部 午前十時三十分～十二時三十分・午後の部 十三時三十分～十六時 *会費二千元。初心者の方は、午前の部に参加してください。〕

龍源寺への交通の便(地下鉄)

- 都営三田線(目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分)
- 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

龍源寺への交通の便(都バス)

- 田87 渋谷駅―田町駅 魚ラン坂下下車

柳 緑

花 紅

明けましておめでとうござい
ます。二年ぶりにお正月を迎
えることが出来ました。『論
語』学而第一に「父親が在世
の時は、父の目指すところを

見るのがいい。父親が亡くなれば、父の
行いを見るのがいい。三年の喪が明ける
まで、父が定めた家のありかたはそのま
まにしておくというのであるならば、孝
子と言うことが出来る」（子曰、父在觀
其志。父没觀其行。三年無改於父之道、
可謂孝矣。）とあり、哲明の目指したと
ころ、哲明の夢とは何だったのだろうか。
泰道の夢とは何だったのだろうか。哲
明・泰道の行いはどうだったか。そのよ
うなことを思っている毎日です▼お檀家
様で、お葬式をだされる場合、知ってい
る葬儀社がない方は、泰道和尚・哲明和
尚の葬儀に使用した葬儀社を紹介させて
いただきます。いざ、ご家族が亡くなる
と、なすべき事がたくさんありすぎて、
慌ただしいのが現状です。私もこの二年
間で、祖父・祖母・父と三人の葬儀をだ
しました。仏事に慣れていく僧侶の私で

さえ、非常に慌ただしい体験をしました。
もし、お葬式をだされる場合、僧侶がい
ないとお葬式ができないゆえに、まず、
一番はじめに龍源寺にお電話を入れてい
ただきたいと思います。龍源寺本堂もし
くは、花園会館を使用してお葬式・家
族葬・密葬も執り行うことができます。
（本堂・花園会館使用の際は、指定業者
となります。）又、生前のご相談もうけ
させていただきます▼年忌法要を行う場
合、本堂が二階にあるため、ご高齢の方
は階段の上り下りが大変です。一階の書
院を使って法要を行うことができます。
広さと定例会の関係上、日曜日に限り十
五名まででお願いいたします。▼渋谷区
広尾にある東北寺内龍源寺墓地・合同船
は、墓地の継承者を気にしなくてもよい
永代供養塔です。龍源寺の規則を守って
いただければ、どなたでもこのお墓を使
用できます。▼私自身、少しずつですが、
禅の語録を精読できる時間ができました。
中国・宋代の語録を現代の言葉でわかり
やすく再生していきたいと思います。月
一回の「禅の会」は、八十名くらいのご

参加をいただいております。十一月に、
初めて、禅の会の同窓会を行いました。
多くの方々にご参加いただきました。な
つかしい気持ちでいっぱいになりました。
第二回も行うとのこと。ご参加ください。
春には、北軽井沢の日月庵坐禅堂の活動
も活発にしていきたいと思えます。▼母
は、お寺の仕事はもちろん、茶道の先生、
佛母寺の護持、民生委員の仕事の毎日
を送っています。祖父母・父が居たときと
同じように、皆様には、お近くにいらし
たときには、お立ち寄りいただけたら嬉
しいと申しております。弟の覚樹は、ア
メリカで教鞭の仕事に就きながら、佛母
寺住職として寺務を行っております。十
月に佛母寺開山である山田無文老師の二
十三回忌法要を厳修致しました。もう一
人の弟である行樹は、横浜の戸塚で活躍
中です。五月二十五日に行われる哲明和
尚の三回忌法要の準備を共に行っていま
す。先日、彼の息子の七五三のお祝い
をしました。少しずつ慶事も増えてきたよ
うです。皆様良いお年でありますように。